



建物外観（撮影：株式会社エスエス 彦坂武徳）

建築概要

建設地：愛知県名古屋市中区丸の内一丁目
 建築主：清水建設株式会社
 富国生命保険相互会社
 清水総合開発株式会社
 設計：清水建設株式会社一級建築士事務所
 施工：清水建設株式会社
 建築面積：3,318.02m²
 延床面積：47,963.16m²
 階数：地上16階 高さ：83.31m
 構造種別：鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）

選評

コアウォールと外殻格子架構の全体構成に対して、免震構造と組み合わせることで実現したスレンダーな外殻格子のグリッドフレームが特徴的な作品。外殻格子は柱・梁ともPC部材とし、2層分・2スパン分の部材を千鳥格子状に建て込んで行く特徴的なシステムにより、積み木を組み上げて行くような施工サイクルの単純化とオフサイト施工による省人化を実現している。

外殻架構のPC部材は構造応力的に合理性を持ったムクリを付けており、その形状が外観デザイン上のアクセントにもなっている。加えて完全なアウトフレームとすることで、室内に柱型の一切出ない使い勝手の良いオフィスを生み出しながら、陰影のあるアウトフレームが日射抑制としても機能し、意匠・構造・設備・施工が一体となった作品に仕上がっている。基準階の四隅には外部に出られるバルコニーが配せられ、共用廊下部の吹抜や屋上庭園、エントランス廻りの県産木材利用、輻射空調の採用等、入居するワーカーのウェルビーイングにも配慮が行き届いている点も特筆したい。

免震+コアウォール+外殻構造の組み合わせは今後も増えて行く傾向にあると思われるが、その中でも総合的な合理性と作品性の高さを、卓越した技術力で実現した建築作品として高く評価できる。（大西 宏治）

建築主：清水建設株式会社
 富国生命保険相互会社
 清水総合開発株式会社
 設計者：清水建設株式会社 国立篤志
 石倉 敦、小嶋一輝、木内佑輔
 施工者：清水建設株式会社 松本昭二郎

免震・制振化した経緯及び企画設計等

3つの事業者が保有する土地を統合し、大規模オフィスを建設する共同事業である。事業者からは、事業継続を可能とする耐震安全性の確保に加え、多様な場所づくりのニーズに応える執務空間の実現と、環境に配慮したネットゼロオフィスの実現が求められ、名古屋市内の大規模オフィスでは前例のない免震構造の採用により、それらを実現した。

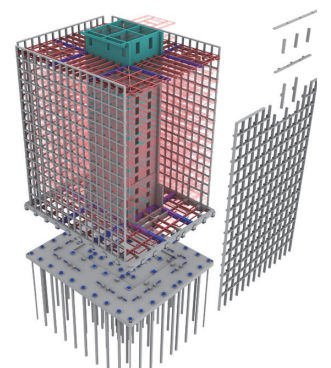
技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

基礎免震構造を採用した上で、建物中央に芯棒としてコアウォールを据えた。外殻格子と呼ぶ外周のグリッドフレームで建物四面を囲い、コアウォールと外殻格子を鉄骨単純梁で接続する。最大20.9mスパンの単純梁を主とした鉄骨床組により架構の自由度を高めたことで、上下階を貫く吹抜などを含む多様な働き方に応える豊かな空間構成を創出した。

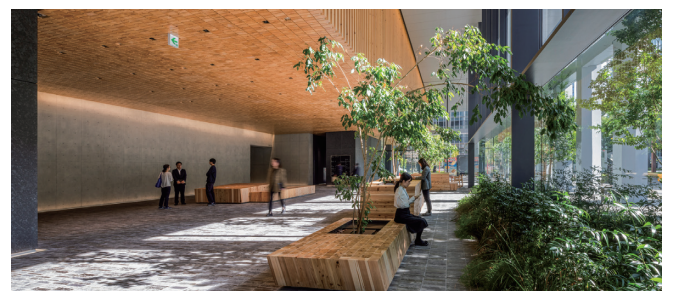
この地域の歴史を継承し、豊かな街づくりに貢献するという想いを込めた外殻格子は、棒状の部材を組木のように千鳥に組み上げる互いに支えあう構造であり、意匠性、構造性能、環境性能を兼ね備えた上で、新たなものづくりの形として施工性にも配慮したものとし、完全なPCの乾式工法で実現した。



外殻格子外観



構造架構パース



前面道路の銀杏並木と繋がる2層吹抜の開放的なエントランス空間（撮影：株式会社エスエス 彦坂武徳）